

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2931 号	氏名	松本 亮一
02	主 査	星野 及昭	(印)
審査担当者	副主査	志波 直人	(印)
	副主査	鷹野 誠	(印)
主論文題目： Lung function in the late postoperative phase and influencing factors in patients undergoing pulmonary lobectomy (肺葉切除術後晩期の肺機能評価ならびに影響を与える因子の検討)			

審査結果の要旨 (意見)

本研究は、肺葉切除した 112 名の術後晩期（1 年以上）の肺機能の評価、影響を与える因子の検討を行った。切除肺葉は右の上葉・中葉・下葉、左の上葉・下葉の 5 群に分類し、術前の肺機能と術後の肺機能、予測肺機能と実際の術後肺機能、術後肺機能に影響を与える因子について検討した。術後晩期の肺機能は統計学的に有意な低下を示した。興味深いことに、左右の下葉切除群において術前の肺機能の予測値より有意に術後晩期の肺機能は改善していた。術後晩期の肺機能に影響を与える因子に関して検討した結果、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) を有する患者では、予測よりも肺機能が低下しなかった。本研究において、下葉切除群において予測値より有意に肺機能が改善していたのは、(1) 上葉・中葉切除術後は残存する下葉の気管が変位し、気流が閉塞する可能性がある、(2) 下葉切除術後は横隔膜が挙上し、死空が少ないことが示唆された。本研究は、現在使用されている術前の肺機能の予測値を再検討する可能性を示唆した。臨床的に重要な研究と考えられる。

論文要旨

肺は切除後に再生しない臓器であり、日本呼吸器外科学会の指針においても、肺切除後の肺機能がある一定値を下回ると予測される場合は周術期リスクが高くなるとしている。肺切除後の肺機能を術前に予測する事は患者の QOL だけでなく、治療方針そのものにも直結する重要な指針である。肺切除直後早期の肺機能の推移に関して諸家の報告があるが、肺葉切除後晩期の肺機能の推移に関しては、未だに不明瞭である。肺葉切除後晩期の肺機能の評価ならびに影響を与える因子の検討を目的とし本研究を行った。対象は本学ならびに関連施設にて肺葉切除を行った患者とした。晩期の定義は手術から 1 年以上経過後とし、切除肺葉は右の上葉・中葉・下葉、左の上葉・下葉の 5 群に分類し、術前の肺機能と術後の肺機能、予測肺機能と実際の術後肺機能、術後肺機能に影響を与える因子について検討した。結果、術後晩期の肺機能は統計学的に有意な低下を示したが、特に左右の下葉切除群において予測値より有意に肺機能が改善していた。術後晩期の肺機能に影響を与える因子に関して検討した結果、慢性閉塞性肺疾患を有する患者では、予測よりも肺機能が低下しないことが明らかとなった。